

CIDOC 参照モデルに関するデータの例

- Epitaphios GE34604 -

by Martin Doerr ICS-FORTH, Crete, Greece and Ifigenia Dionissiadou Benaki Museum, Athens, Greece 1998 年 10 月 2 日

序論

(by Martin Doerr) 我々は意味解析の方法を具現化するために、データが CIDOC Reference Model の下でどう表れるかという例を作成した。データは Benaki 博物館での所蔵物から集められて、ICS-FORTH で CIDOC Reference モデルのデータベースに投入され、そこから以下のフォームに抽出された。実際のフォームは任意であり、モデルはタグ、結合性および実体だけを記述する。私は、読者に最初に出てくる画像のすぐ下のコメントを読む事をお勧めする。以下、そのオブジェクト。



フォームに関するコメント

(by Martin Doerr) これは「対称な」CRM をオブジェクトの見地からフォーマットに変えることができる、一つの例である。

これはドキュメンテーションフォーマットの規格のための提案ではないが、しかし客観的な機械解析フォームの中のオブジェクト記述による意味解析の可能性を表す。もしそれぞれの逆の属性名が使用されるならば、以下の情報を入(例えば、George of Kyriaze)の、歴史的な出来事、場所などの記述に変えることができる。

すべての「ショートカット」属性がイタリック体である。それらを記述された状態に通じるそれぞれの動きに典型的には広げることができる。それぞれの動きのいくつかが後でテ

キストで実際に続く。

すべての逆の属性名が、いかに概念のネットワークから引き出されるかを示すために omitted された。

すべてのエンティティのインスタンスはボールド体で、挿入語句でエンティティ名でコメントした。ただ、「タイプを持つ」属性の後ろにだけ私は「エンティティタイプ」を omitted した。

私は全てのエンティティのインスタンスのための識別子として、意味のネットの方法で、time-span オブジェクト以外、「-」サインを使って自然な表現を割り当てた。動きは「< >」にいた表現のようにうまく読めないもの。

ただ使われている属性だけが、「任意」が何を意味するかを示すために表示される。

私は最初の発生でインデントのすべての情報を広げた。どのエンティティインスタンスも 2 度目の発生では広げられていないが、（他を見よ）とマークされている。理解して欲しいのは、以降の全ての発生も実態のモデルで参照しており、repetitions ではなく、文章のフォームで示唆するかもしれない。また、属性の逆の名前を使用した参照として、そのような各参照は現れることがある。例えば、「<Despoineta のプロの期間> (エンティティ Activity) Despoineta による(上を見よ)これらは、完全な拡大で見られるであろう「Despoineta (エンティティ Person)」は「<Despoineta のプロの期間> を実行した(下を見よ)」なぜなら完全なモデルはこの属性を「carried out by (carried out)」として登録する。

地理的な情報は TGN に対して制御された。私は実際に TGN に対して、イスタンブールはトルコを通してアジアの一部であると言う事に反対である。明らかに、TGN は monohierarchical モデルで捕らえられる。CRM がこの問題を領域の数個の部品からの「構成」であると許容する、そして通常の階層からこぼれおちた「consists of」リンクで解決する。私はすべての TGN placenames を割り当てるわけではなくて、識別子としての方言名の代わりに英語を使用した。

「転送」エンティティは多重 instantiation の好例である。我々が保護の取得と転送が同じ人々に cooccurs する「正常な」ケースを記述する実体を作成するならば、疑問である。私はこれらの美しいデータのために Benaki 博物館に感謝したい。

Martin Doerr

正式の記述

Epitaphios GE34604 (Entity Iconographic Object)

識別される.

TA 959a (entity Object Identifier)

GE 34604 (entity Object Identifier)

望ましい識別子

GE 34604 (entity Object Identifier)

タイプ

教会の刺繍

典礼の布

現在の所有者

Benaki 博物館 (法人)

タイプ

個人的な博物館

接点

<Ifigenia Dionissiadu>ifi@benaki.gr (entity Contact Point)

Koumbari Street 1, Athens (entity address)

前の / 現在の所有者

Georgios, Kyriazes の息子 (entity Person)

特記事項

‘彼は Holy Land の巡礼者だった’

アンカラのギリシア共同体の **Metropolitan** 教会(entity Actor)
タイプ
教会の団体
Benaki 博物館 (上を見よ)
現在の所蔵者
Benaki 博物館 (上を見よ)
前の / 現在の所蔵者
アンカラのギリシア共同体の **Metropolitan** 教会(上を見よ)
Benaki 博物館 (上を見よ)
custody_changed_by
Epitaphios GE34604 の転送(保護, 取得のエンティティ転送)
custody_surrendered_by
アンカラのギリシア共同体の **Metropolitan** 教会(上を見よ)
transfers_title_from
アンカラのギリシア共同体の **Metropolitan** 教会(上を見よ)
custody_received_by
Benaki 博物館 (上を見よ)
transfers_title_to
避難民の **Exchangable** 基金(entity 法人)
タイプ
国立基金
実現
避難民の **Exchangable** 基金(上を見よ)
時間幅
- (entity Time-Span)
開始
1923 (entity Date)
終了
1928 (entity Date)
場所
ギリシア(entity Place)
タイプ
国家
共和国
所在
ヨーロッパ(entity Place)
タイプ
大陸
現在の位置
引き出しの 8 / ケース 27 / 部屋の 6 / フロアの-1 / **new wing** (entity Place)
タイプ
引き出し
所在
Benaki 博物館...本館(entity Place)
タイプ
博物館ビル
確認
Koumbari Street 1, Athens (上を見よ)
所在
アテネ(entity Place)
タイプ
都市

		国家の首都
	所在	ギリシア(上を見よ)
現在の永久的な位置		引き出しの8/ケース27/部屋の6 /フロアの-1 /new wing (上を見よ)
前の / 現在の位置		引き出しの8/ケース27/部屋の6 /フロアの-1 /new wing (上を見よ)
		アンカラ(entity Place)
	タイプ	都市
		国家の首都
	所在	小アジア(entity Place)
	タイプ	地方
	所在	アジア(entity Place)
	タイプ	大陸
		トルコ(entity Place)
	タイプ	国家
		共和国
	構成	小アジア(上を見よ)
		東トラキア(entity Place)
	タイプ	地方
	所在	ヨーロッパ(上を見よ)
製作者		< Epitaphios GE34604 の創造> (entity Production)
	タイプ	手仕事
	特記事項	「情報は碑文から得られる」
	時間幅	- (entity Time-Span)
		開始
		1682 (entity Date)
		終了
		1682 (entity Date)
	場所	イスタンブール(entity Place)
		識別
		E iooaioeiyy?ieeo(entity Place)
	タイプ	都市
	所在	トルコ(上を見よ)
		東トラキア(上を見よ)

実現

Despoineta (entity Person)

タイプ

針の女性

一般的なテクニック

金銀刺繍(entity Type)

特定の目的

Georgios によるオーダー, **Kyriazes** の息子(entity Activity)

タイプ

商業オーダー

実現

Georgios, Kyriazes の息子(上を見よ)

特定の目的

Georgios による寄付, **Kyriazes** の息子(entity Acquisition)

タイプ

教会の団体への寄付

transfers_title_of

Epitaphios GE34604 (上を見よ)

Cross GE34059

タイプ

processory cross

現在の所有者

Benaki 博物館 (上を見よ)

transfers_title_from

Georgios, Kyriazes の息子(上を見よ)

transfers_title_to

アンカラのギリシャ共同体のメトロポリタン教会(上を見よ)

場所

アンカラ(上を見よ)

所在

<**Despoineta** のプロの期間> (entity Activity)

タイプ

針仕事

実現

Despoineta (上を見よ)

時間幅

- (entity Time-Span)

開始

1682 (entity Date)

終了

1723 (entity Date)

場所

イスタンブール(上を見よ)

概念についての表現

哀惜(entity Type)

視覚項目

Epitaphios GE34604 に関する碑文(entity Inscription)

言語

中世のギリシア語

特記事項

Inscription text:

Center: «ΔΙΑ ΧΕΙΡΟΣ ΑΧΡΕΙΑΣ ΔΕΣΠΟΙΝΕΤΑΣ, ΗΜ(ων) ΔΕΣΠΟΙΝΗΣ ΔΟΥΛΗΣ,
ΦΕΙΔΟΠΟΝΕΙΤΑΙ ΤΟ ΠΑΡΟΝ, ΕΝ ΚΩΝΣΤΑΝΤΙΝΟΥΠΟΛΕΙ»

On the lower side: «ΤΗΝ ΠΑΝΣΕΠΤΙΤΟΝ ΜΩΡΦΗΝ ΤΗΣ ΣΗΣ ΕΠΙΤΥΜΒΙΟΥ ΧΑΡΑΚΤΗΡΙΣΑΣ
Π[ΡΟΣΕ]ΘΗΚΕΝ ΤΗΔΕ Μ(ητρ)ΟΠΟΛΕΙ ΑΓΓ[ΥΡΑ]Σ ΤΗΣ ΠΡ[...]ΣΤ [...] ΚΥΡΙΑΖΗ ΔΕ ΓΟΝΟΣ
ΠΡ[ΟΣΚΥΝΗΤΗΣ ΚΑΙ ΔΟΥΛΟΣ ΣΟΥ, ΘΕΙΕ Θ(εο)Υ ΔΟΓΕ ΓΕ[ΩΡ]Γ[ΙΟΣ]»

On the right: « ΕΝ ΕΤΕΙ Σ(ωτηρ)ΡΙΩ ΑΧΠΒ... ΟΤΕ ΕΝ ΤΩ ΤΑΦΩ ΤΩ ΚΕΝΩ, ΥΠΕΡ ΤΟΥ ΠΑΝΤΟΣ
ΚΑΤΕΤΕΘΗΣ Ο ΠΟΙΗΤΗΣ | ΤΟΥ ΠΑΝΤΟΣ ΑΔΗΣ Ο ΠΑΓΓΕΛΑΣΤΟΣ ΕΙΔΟΝ ΣΕ ΕΦΡΙΞΕΝ ΟΙ
ΜΟΧΛΟΙ ΣΥΝΕΤΡΙΒΗΣΑΝ ΕΘΛΑΣΘΗΣΑΝ ΠΥΛΑΙ ΜΝΗΜΑΤΑ ΕΙΝΗΧΘΗΣΗΣΑΝ, Σ(ωτ)ΕΡ
ΑΝΕΒΟΑ ΣΟΙ ΔΟΞΑ, ΤΗ ΟΙΚΟΝΟΜΙΑ ΣΟΥ ΦΙΛΑ|ΑΝ(θρωπ)Ε.»

On the upper inner zone: Η ΖΩΗ ΕΝ ΤΑΦΩ ΚΑΤΕΤΕΘΗΣ Χ(ριστ)Ε, ΚΑΙ ΑΓΓΕΛΩΝ ΣΤΡΑΤΙΑΙ
ΕΞΕΠΑΗΤΤΩΝΤΟ, ΣΥΓΚΑΤΑΒΑΣΙΝ ΔΟΞΑΖΟΥΣΑΙ ΤΗΝ ΣΗΝ.

On the lower inner zone: + ΑΙ ΓΕΝΝΕΑΙ ΠΑΣΣΑΙ ΥΜΝΟΝ ΤΗ ΤΑΦΗ ΣΟΥ ΠΡ[ΟΣΦΕΡΟ]ΜΕΝ
ΧΡΙ[ΣΤΕ ΜΟΥ .Τ]ΡΙΑΣ ΘΕΕ ΜΟ[Υ ΠΑΤΗΡ ΥΙΟΣ ΚΑΙ ΠΝ(ευμ)Α ΕΛΕΗΣΟΝ ΤΟΝ ΚΟΣΜΟΝ.

On the left inner zone: Ο ΕΥΣΧΗΜΟΝ ΩΣΗΦ ΑΠΟ ΤΟΥ ΕΥΛΟΥ ΚΑΘΕΛΩΝ ΤΟ ΑΧΡΑΝΤΟΝ
ΣΟΥ ΣΩΜΑ ΣΙΝΔΟΝΙ ΚΑΘΑΡΑ ΕΙΛΙΣΑΣ. Εις την δεξιά: + ΑΞΙΟΝ ΕΣΤΙ ΜΕΓΑΛΛΥΝΕΙΝ ΣΕ
ΤΟΝ ΖΩΟΔΟΤΗΝ ΤΟΝ ΕΝ ΤΩ ΣΤ(αυ)ΡΩ ΤΑΣ ΧΕΙΡΑΣ ΕΚΤΕΙΝΑΝΤΑ Κ(ατ) ΣΥΝΤΡΙ

一般的な使用

epitaphios 機能(entity Type)

意図

epitaphios 機能(entity Type)

寸法

1.50 m の長さ

1.12 m の幅

部品の数

1 断片

構成

銀の糸(entity Material)

金の糸(entity Material)

絹の布(entity Material)

Benaki 博物館の Epitaphios GE34604 のモデル の注釈

(by Ifigenia Dionissiadou)

モデルの記述の順序:

識別情報

EpitaphiosGE34604 は画像解釈オブジェクトの内容であり、その主な特徴を画像解釈学に基づき、属性を持たせることにより画像解釈学を記述する必要がある。

EpitaphiosGE34604 には、2つの識別子がある--古い TA 959a と現在の(望ましい識別子) GE34604。

そのカテゴリ(ObjectName Type)は二重である: それは教会の刺繍のグループに属し、オブジェクトタイプのシソーラスの中にあるそれは (モデルのすべてのタイプが用語のシソーラスで作られると思われる)刺繍のサブクラスでなければならず、彼らの技術に基づいたオブジェクトのサブクラスであるべきである。

また、同じくそれはオブジェクトタイプのシソーラスで、布のサブクラスである典礼の布などである。このように、ユーザは異なった意味の世界の、より広い用語を通して

EpitaphiosGE34604 を取るであろう。

取得と所有権情報

** 現在まで開発された CIDOC モデルは博物館オブジェクトとそこに含まれるコレクションと間のリンクを持っていない。これは将来加えられるという重要な収集管理情報である。

この例では、EpitaphiosGE34604 は Benaki 博物館のピザンテン様式の後のコレクションに属すが、これはモデルで記述されていない。

EpitaphiosGE34604 には**現在の所有者である** Benaki 博物館がいる。モデルはこの時点で Benaki 博物館について**タイプとコンタクトポイント**(この場合コンタクトポイントとは電子アドレスとローカルなアドレスの両方である)を持った属性を通してこの情報を分析する。

前の(旧)所有者は: 最初は、Georgios、Kyriazes の息子と呼ばれる人物であった。 - 彼に関しての情報は note に記されている。 - そして、後に、アンカラのギリシア共同体のメトロポリタン教会という教会団体となった。

オブジェクトの物理的な保護の転送は、元/**現在の所有者**の属性を通じて記述される。

ここに、我々は、より分析的に、この物が 1923 年にギリシア人の小アジアからの追放の間にギリシア人の避難民によって持って来られ、そしてアンカラのギリシア共同体の難民の Exchangeable 基金の所有となったと記述したいかもしれない; 1928 年に、難民の Exchangeable 基金はこの物を Benaki 博物館に預けた。もし上の情報をモデル化する必要はないなら、我々が前/現在の所有者 entity の has note 属性にテキストで入力するかもしれない。その場合、我々は検索により難民の Exchangeable 基金の調停と転送のタイムスパンを miss する。もしこれらをモデル化したいなら、我々が以下を分析するのを選ぶかもしれない。

Epitaphios GE34604 が保護を変えた(**保護によって変えられた**)動きは、Epitaphios GE34604 の**転送**と呼ばれる、CIDOC モデルの保護の転送の例および取得の例である。(この例が保護の転送と取得活動の両方から属性を引き継ぐことを意味する) その活動の間、**物理的な保護**はアンカラの Metropolitan 教会によって**放棄**されて、Benaki 博物館によって**受けられた**。しかしながら、Epitaphios GE34604 に関する**タイトル**はアンカラの Metropolitan 教会から難民の Exchangeable 基金と呼ばれる国立財団へ**移された**。手続き**時間幅**にして 1923-1928 の間 Exchangeable 基金によって**実行**されて、ギリシアの、**国家およびヨーロッパ大陸の中に存在する共和国状態をとった**。

位置の情報

位置の完全な記述は記録される。

位置**タイプ**センサーは我々が使用する格納空間のたぐいに分類される。現在の位置が中(**物理的な位置**)に含まれる Benaki 博物館新館で、それが博物館の建物**タイプ**であり、住所で識別される。

現在の永久的な位置と現在の位置は交流や展示会、研究などで博物館オブジェクト移動した場合において異なる場合がある。

前の位置は以前アンカラのギリシア共同体の Metropolitan 教会の教会団体の本部だったビルであるべきである。この場合、団体とその席とのリンクは、CIDOC モデルで確立するために有効である。しかしながら、我々は、Epitaphios GE34604 の前の位置が小アジアの国であり、共和国であり、小アジア(アジア)と東トラキア(ヨーロッパ)にまたがる現在のトルコの首都アンカラでだったと言うかもしれない。

その点では、我々は CIDOC モデルがどう場所の参照を扱うのかをコメントするべきである: あるアドレスに始まり、我々は包含の総チェーンを記述する(アドレスは都市の中に**含まれ**、都市は地方の中に**含まれ**、地方は国の中に**含まれ**、国は大陸などの中に**含まれる**。)この地理的な分析は、ユーザがそれらが位置するより広い領域を通じて場所を検索するのを可能にする。各場所は TGN のようにモデルの**一度**ある権威に従って記述される。その後...既に記述された場所のデータベースのあらゆる**参照**(例えば、創造の場所か博物館オブジェクトの使用により; 人の出生や死の場所; 活動が行われた場所)により、自動的に、より広い場所の全体のチェーンにリンクされる;

歴史的な情報

EpitaphiosGE34604 の創造(または、より良い生産)は活動のように CIDOC モデルで扱われる: **それには、タイプがあって、時間幅とそれはイスタンブール、別名 “Konstantinople” として識別された都市で行われた。**

ここに、私は、イスタンブールが以前その期間のオスマン帝国の首都だったと言及すべきである。しかしながら took place 属性は歴史的な参照でなく、CIDOC モデルで場所識別子として参照される。場所は CIDOC モデルには受け入れられた権威、またはいくつかの場所称号によって定義された空間的な定義である。その意味で CIDOC モデルでエンティティ Period を通して記述されるある一定の場所での出来事が異なった名前によって呼ばれて、過去の間異なった政治上のユニットに含まれていたかもしれない。私が指したオスマン帝国の期間は東トラキア(他の場所の間の)の地方にあって、1342 年から 1924 年までの時間幅を持っていた。

EpitaphiusGE34604 の創造は人によって実行され (いや、グループかもしれない) 一般的な技術を使用することによって、行われた。(我々にモデルでその過程を記述する理由がない限り、それは再びシソーラス技術のタイプ、その場合、特定の技術は定義された動き、Production のサブクラスになる);

EpitaphiusGE34604t の創造が特定の目的のために行われた: processory 十字と共にそれを彼の故国の Metropolitan 教会に寄贈するのは Kyriazes の息子のジョージによって命令された。このオーダーは別々の活動のように再び扱われる:(活動には、それ自身のタイプ、実行者(carried out by)および特定の目的がある。それは別の物とともに、processory 十字 GE34059 に伴う教会への寄付である。寄付は再びそれ自身での活動として、所有者から別の所有者へ 2 個の物のタイトルを移す。

なぜ 3 つの別々の活動の発生を分析するか? 創造、注文および寄付が異なった場所と時間幅で異なった人々によって起こるかもしれない、我々は、正確にそれらを記述することができる必要があるから。我々の場合では、EpitaphiusGE34604 は Konstantinople の都市で、我々が今後のシステムでの参照のためのドキュメントを期待する Despoimeta と呼ばれた有名なお針子により 1682 年に作られた。オーダーは恐らくその創造の前に Kyriazes の息子の Georgios より出された。寄付はたぶんアンカラの別な場所で、我々が現在仮定する 1682 年より後の、そして異なったソースによって立証するかもしれない時間に起こった。さらに、我々が EpitaphiusGE34604 の寄付をリンクしたい、我々の収集とは別の物、Cross GE34059、そしてそれは Georgios が当時、教会にさらに申し出た物。我々がこれらのすべての情報をモデル化するわけではなかったならば、我々が代わりにテキスト note で入力することができる(我々がソースとして碑文を使用することに関する情報を処理しながら)その場合だけ、我々は物の注文と寄付の出来事(これがアンカラから来た理由である)や、ドナーとしての Kyriazes という名前を検索することができないだろう。

Falls within リンク(Despoimeta のプロの期間に含まれる EpitaphiusGE34604 の創造のこと)は針の女性として Despoimeta のプロの活動に関する情報を我々に提供する。1682-1723 の間の Despoimeta による作業で、イスタンブールで行われたように Despoimeta の刺繍は扱われる。その方法で、ユーザが Despoimeta に関して尋ねると、彼にはまた、彼女のお針子としての活動に関する情報と、彼女のこの特定の仕事における参照を得るだろう。

記述情報

EpitaphiosGE34604 は哀惜の概念について描写する。哀惜は、図像タイプ(タイプは図像タイプのシソーラスでさらに記述されるべきである)であると見なされ。(十字架から放たれて死んでいるキリストの典型的なビザンチン様式の場面。処女、Joseph of Arimathea と St. John の哀悼が描かれている)そして宗教的な場面のサブクラスである、クリスチャンの場面のサブクラスとしての激しい感情のサークルのさらにサブクラスである。ユーザがシソーラスの階層制で設定される多くの、より広い用語を通る一つとして

EpitaphiusGE34604 の図像オブジェクトを取るかもしれない、すべての愛惜描写を参照する方法で(またはこの概念で書かれているテキストさえ)データベースの博物館オブジェクトの上に見つけられる。

また、EpitaphiusGE34604 は碑文を視覚項目に示す。CIDOC モデルは、碑文についてその物理的な存在でなく文脈(テキスト)だけを碑文と見なし、; EpitaphiusGE34604 が持っているかもしれない bears feature 属性を通じて記述することができる。(別々の実体を作成する; Man-Made Feature の例) CIDOC モデルが碑文の概念的な本質から物理的を切り離す理由は、碑文の文脈(テキスト)が一つ以上の物理オブジェクトで書かれていると見られるか

らである。(例えば、我々の Epitaphius の碑文はその種類の他の多くの物の上に通常見つけられる宗教テキストを含む) さらにその上、そういうもののテキストには、概念的な本質の属性があり、物理的な物に対応しない。言語性を持っている概念的な Linguistic Object だけ(さらに、スクリプト、手紙などのタイプに分析される)あるいは翻訳である。一般で意図された使用は我々の場合で同じである: その一般的な使用を実現させたオブジェクト(飾りのナイフのようにいくつかの場合これが起こらない) Epitaphius 機能は Function がタイプで、シソーラスでどれをさらに記述することができる。(正統の教会でキリストの Deposition を祝う儀式は聖金曜日に行われて、Epitaphius がアイコンとして使用され、神聖な祭壇に設定され、その後そこに Assumption の日まで残っている)

物理的な記述情報

物理的な物であり、EpitaphiusGE34604 は寸法と部品を持って、ある材料から成る。材料は Material Thesaurus のタイプである)。